

授業改善書

科目名	英語 I (水曜2時限目)
担当者	熊田 和典

授業の概要

子ども発達学科所属の1年生を対象にした必修の英語の授業である。テキストは、将来の職場となる保育園や幼稚園にて英語を話す子どもと実際英語を使うことを想定したテキストである。そのような実践の場面に役立つ英語を、特に、読む、表現する、話すに焦点を当てて授業を行っている。授業中は、何度も学生に発言を求めて、双方向の授業になるように心掛けている。

授業の問題点

この科目は今回授業アンケートを実施した私の科目の中で一番評価が低いものであるため、この科目を選ぶことにした。授業アンケートの項目のすべてにおいて思った以上に低いため、全体にわたって今後対処しなければならぬと思われる。

私の印象とは異なり、授業外学習をしたか否かの項目については、4.18と高評価がついているのは意外であった。実際、教壇に立って学生に発言を求めてみると、予習をしていないため、発言を求めてから内容を考える学生がこの評価以上にいたと思われる。事実、テキスト、ノートにもこれから学ぶ箇所にメモがない。つまり、予習の形跡がないのである。このような状況であれば、授業の形式が双方の授業のため、授業は思ったようには進まないものである。

授業改善の課題・方策

まず、もう一度授業全体にわたって丁寧に授業を行っていきたい。さらに、学生にも予習を行うように働きかけ、授業がスムーズに進むように心掛けていきたい。

全体にわたって評価が思ったよりも悪い場合、評価が伸びない理由として、授業全体にかかわる、アンケート項目やコメントにはない何か別の理由がある可能性もあると思われる。

このクラスの定期試験の結果は、全体として成績が思った以上に良好だった。ひっそりと、授業で、もう少し学生の力を伸ばす刺激のある高度な内容のことは行った方が学生には満足度が高いのではないかと定期試験の後に考えた。秋期も同じ学生を対象に英語Ⅱを行うので、急に方向を変えると学生も驚くだろうから、少しだけ刺激のある形で、進度も少し上げていきたいと思っている。

その他

学生のコメントに「日本語訳が抜けている時が多くて困ることがあります。」とある。授業はゆっくりと進むように心掛け、ひとつの文につき最低2度、多い場合は4度くらい和訳を繰り返しているはずなのだが(おそらく多すぎるくらいだと思います)、なぜこのようなコメントが出るのか、私個人としては理解に苦しむ。もっとも、このようなコメントが出たため、今後自分自身でも再度チェックしていきたいと思っているのだが。